



# 令和4年度 福島県立須賀川支援学校本校 学校経営・運営ビジョン

## 中間評価

小=小学部児童 中=中学部生徒 高=高等部生徒 教=教員  
A=達成できた B=ほぼ達成できた C=あまり達成できていない

**校訓**  
健康・友愛・感謝

**児童生徒像**  
・明るく 強く 生きる人  
・自ら学び 考える人  
・心豊かで 思いやりのある人

**教育目標**  
○ 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。  
○ 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。  
○ 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

**学校像**  
・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校  
・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校  
・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

**教員像**  
・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員  
・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員  
・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

**< 今年度の努力目標 >**  
児童生徒の生涯を通じたよりよい生活の実現に向けて、一人一人の病状や障がいの特性等に応じた指導の一層の充実を図るために、ICT機器を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえ、指導と評価の一体化に基づく授業づくりに努める。

<p><b>小学部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ スタッフ会や授業者間での話し合いを通して、児童の実態や課題、学習評価を共有し、支援に当たっている。</li> <li>□ リモートの仕方や動画の作成方法など、グループ研修で学んだ内容を授業に生かしながら実践している。</li> </ul>	<p><b>中学部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 支援方法や評価に関して、授業の前後に、授業者間で話し合いをもつ機会が増えている。</li> <li>□ ICTを活用した授業実践を教員同士で互いに伝え合ったり、ICT支援員に相談したりするなど、活用に対する意識も高まっている。</li> </ul>	<p><b>高等部</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生徒指導上の案件等に対して、学級、学年、学部の関係者によるチームで対応することができた。一方で、年度初めの情報共有が不十分であった。</li> <li>□ 日々の授業において、生徒の実態や教科・科目等の特質を踏まえて、ICTを活用することができた。</li> </ul>
--	---	--



**健康 体**  
明るく 強く 生きる人  
病気を理解し、健やかな体の育成をめざします  
○健康・安全生活の充実 小:B 中:A 高:B 教:A  
○体育・健康に関する指導の充実 小:B 中:B 高:B 教:A

**友愛 知**  
自ら学び 考える人  
教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします  
○学力の向上 小:C 中:B 高:C 教:B  
○病弱教育の専門性の向上 教:A

**感謝 徳**  
心豊かで 思いやりのある人  
豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします  
○キャリア教育の充実 小:B 中:A 高:B 教:A  
○道徳教育や交流及び共同学習の充実 小:B 中:B 高:B 教:B

各種計画 目標

学部目標・学級目標

入学  
転入出  
卒業

小学部  
中学部  
高等部

**保健部 学校保健委員会**

- 性に関する指導研修会では、3つのグループで、それぞれのテーマごとに事例を挙げて話し合い、問題となる点や指導の手立てについて意見交換することができた。意見交換した内容を授業実践や指導につなげられるようにしていきたい。
- 食育コンクールでは、地場産物に目を向けて、家族と協力して調理するなど、食に関心をもつきっかけとなった。
- 校内環境の整備では、物品の補充など物品管理の面で不十分な点があった。今後は校舎間の物品管理の方法について検討し、改善していきたい。

**生徒指導部**

- 「交通安全教室」を実施し、興味関心をもって交通ルールや自転車の運転に関する知識を深めることができた。
- 集会で声掛け事案が発生した場合の対処法を学び、防犯意識を高めることができた。
- 「携帯安全教室」を実施し、ネット上での円滑なコミュニケーションに必要な要素や注意点について理解を深めることができた。

**教務部**

- ICT機器の活用に関する成果と課題を年間指導計画に記録として残し、授業改善等につなげる取組を実践中である。
- 各種計画の活用方法や様式の改善を通して、特に三観点を踏まえた児童生徒の学習状況をより適切に評価するための内容や方法について検討していく。

**研修部**

- 児童生徒の実態に基づいた、ICTを効果的に活用する授業づくりのために、「授業デザイン」を活用したグループ研修を行い、計画的に研鑽を積んでいる。
- 講師を招聘した校内研修会を3回実施し、病弱教育におけるICTの効果的な活用について知識を深めることができた。

**情報教育部**

- 全職員対象に AAC (補助代替コミュニケーション) や AT (アシステブテクノロジー) の考え方を伝達することができた。
- 多様な学びや深い学び合いのための手段として ICT 機器を活用することができた。

**小学部**

- 運動会や阿武隈小学校との交流では、やりとりの場面を工夫したり、オンラインを活用したりすることで児童同士がかかわり合いながら、経験を広げることができた。
- 中学部の授業見学及び体験では、作業学習等の授業に参加することで、中学部の学習イメージをもつことができた。

**中学部**

- 進路希望先の見学や授業体験を、個々のニーズに応じて行うことができた。
- 高齢者施設との交流活動は、企画から運営まで生徒主体の活動を取り入れ実施できた。振り返りの学習では、相手を思いやった発信が多く生徒から見られた。

**高等部**

- 学校職場見学会では、生徒一人一人の実態や進路希望など、将来を見据えて見学先を設定することで充実した見学会となった。
- 児童生徒作品展に出展したり、地域の方と音楽を通して交流をしたりすることができた。他校との交流やボランティアの実施については2学期に実施予定である。

**進路指導部**

- 前期現場実習を通して、働くために必要な力についての理解を深めるとともに、自分の強みや課題について知ることができた。
- 進路先の形態別に「福祉相談会」「職業相談会」を実施したが、就労の現状や卒業後かわる相談機関について情報を得ることができた。

**地域支援センター** センターの機能の充実 ～ 地域のニーズに応じた相談・支援の充実をめざします ～

【相談・研修】(7月末) 来校相談件数: 24件 出かける相談支援: 18件  
就学前の子ども園等には、継続的に相談支援を行っている。課題を確認できるよう、前回の記録等を活用し、個別の教育支援計画の評価と見直しを行った。アドバイザーを中心に関係機関との連携が構築され、保健師同席でのケース会議を開いた。今後、高等学校での研修会を開催予定。  
【特別支援教育研修会】地域のニーズが非常に高い、心の病気に関する研修会を行った。県下70ヶ所の接続、計104人の参加となった。